

土木学会選奨土木遺産認定書授与式を行います！

ひびきはし
～響橋が土木学会選奨土木遺産に認定されました～

「めがね橋」の通称で親しまれている響橋（鶴見区）が、平成 28 年度の土木学会選奨土木遺産に認定（9月20日）されました。

つきましては、土木学会選奨土木遺産認定書授与式を開催しますのでお知らせいたします。

1 授与式について

(1) 日時

平成 28 年 11 月 14 日（月）14 時から 14 時 30 分まで

(2) 場所

横浜関内ビル 9 階 道路局長室（横浜市中区港町 2-6）

(3) 出席者

- おがた たけお
・小方武雄 氏（前選奨土木遺産関東支部選考委員長）
- なかとう せいじ
・中藤誠二 氏（選奨土木遺産関東支部選考委員／関東学院大学理工学部准教授）
- やまさき ひとし
・山崎 仁 氏（選奨土木遺産関東支部選考委員／一般社団法人湘南建設業協会）
- ・中島泰雄 横浜市道路局長

(4) 取材について

取材される場合は直接会場にお越しください。

2 選奨土木遺産に認定された施設について

名 称：ひびきはし 響橋

完成年次：1941（昭和 16）年

形 式：鉄筋コンクリートアーチ橋 橋長 48m、アーチ部の高さ約 13m

設計者等：今井兼次氏、内務省横浜土木出張所横浜新京浜国道事務所

施 工 者：不詳

【建設経緯】

1923（大正 12）年の関東大震災の復興後の京浜工業地帯の著しい発展により、第一京浜国道（現国道 15 号）の交通量が激増し限界に達したため、第二京浜国道（現国道 1 号）の建設が 1936（昭和 11）年 10 月に着工され、響橋は当初寺尾橋と呼ばれ、第二京浜国道建設に伴い分断される水道道の陸橋として計画されました。

この頃、第 12 回オリンピックの 1940（昭和 15）年、東京開催が正式に決定し、響橋が、オリンピックで想定されるマラソンコースの折り返し地点にあたることから、その存在が重要視され、意匠面でも特徴的なものとなりました。

しかしながら、日中戦争の拡大に伴い、1938（昭和 13）年 7 月に東京オリンピックは返上され、「幻のオリンピック」となりましたが、鋼材等の支給制限や工事関係者の戦地招集の状況の中、響橋の工事は続行され、1941（昭和 16）年 3 月に竣工しました。



響橋 (写真データを提供できます)

響橋は震災復興後の京浜工業地帯の発展や自動車交通の発達による道路網の拡大や都市形成史を物語るとともに、幻となった東京オリンピックをしのぶ貴重な遺構といえます。

また、構造的には開腹アーチ※¹で、単一面のヴォールト※²面に鉛直材として隔壁を立ち上げ路面を支えており、コンクリートアーチ橋の一典型といえます。

特に意匠面では、モールディング※³を施してアーチを強調したアーチリングと、上床版底部に連続するヴォールトが相まって軽快なデザインとなっています。また、隔壁にはスリット※⁴を、アーチの内輪にもリブ※⁵を入れてコンクリートの重量感を軽減し、直線でデザインされた高欄や親柱とともに、全体に軽快かつ陰影に富んだ繊細なデザインを実現しています。このため切り通しに架かる軽快なアーチ橋として「めがね橋」とも呼ばれ、地域のランドマークとなっています。

● 位置図



【用語説明】

開腹アーチ※¹

ヴォールト※²

モールディング※³

スリット※⁴

リブ※⁵

鉛直材の箇所に隙間を空ける形式

かまぼこ型の形状

段差などを施す建築意匠

長い隙間、切れ目

溝を施す建築意匠

(参考) 土木学会選奨土木遺産とは

土木遺産の文化的価値を評価するとともに、先人の土木技術者の功績を称え、歴史的土木建造物の保存に資することを目的として、公益社団法人土木学会が、平成12年度に創設した認定制度で、推薦および一般公募により、全国から年間20件程度が選出されています。

横浜市内では、昨年認定された「元町・山手地区の震災復興施設群」に続き、4件目の認定となります

お問合せ先

道路局橋梁課長 安達 秀昭 Tel 045-671-2752